

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	友原 嘉彦	職名	准教授	学位	博士 (学術) (広島大学 2011 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光地理学、観光社会学、ドイツ語圏観光研究	女性と観光、観光と文化資本、サードプレイス研究

研究課題
<p>2018年3月をもって、3ヵ年に渡る女性と観光についての科研費採択課題が終了した。その後、新たな研究を模索する中で、地域貢献的な面も含め、観光目的地としての性格・求心力が弱い地方の鉱工業都市に焦点を当て、2018年度はこのような都市における観光都市的性格付けをテーマとして、研究し、論文にまとめた。</p> <p>しかし、2018年度の中盤からこうした都市について研究するモチベーションが著しく減退したため、また新たな研究を模索した。1つは Oldenburg(1989)によるサードプレイス論を観光に援用したサードエリア研究である。サードプレイスが近代後期の地方都市にとってうまくいかないため、エリアという枠組みでサードプレイスを検討し、これにかかる情報収集に時間を割いた。</p> <p>もう1つは上述の女性と観光の続編的な性格も有する研究であり、特に2019年度の最終盤である2020年より研究を始めた。具体的には地方都市が輩出した女性の偉人を同都市のアイデンティティの形成、さらには観光目的地としての振興に活用するといったことの過程を研究している。</p>

担当授業科目
<ul style="list-style-type: none"> ・前期：「初年次セミナーⅠ」、「ツーリズム英語」、「欧米観光文化地理Ⅰ」、「観光フィールドワーク」、「観光学入門」、「比較文化論」 ・後期：「初年次セミナーⅡ」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「フィールドワーク入門」、「観光フィールドワーク」、「地域活性化研究」 ・通年：「専門演習Ⅱ」、「卒業研究」

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 卒業研究 】</p> <p>3年次のゼミ「専門演習Ⅱ」からの流れを踏まえ、1年間を通して卒業論文執筆の助言に費やした。特に夏季において、入念に調査研究を行なってくれたこともあり、結果、受講生全員が学士として相応しい水準の論文を執筆することができた。</p>
<p>授業科目名【 専門演習Ⅱ 】</p> <p>4年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、興味を持った文献について発表もしてもらった。また、福岡県那珂川市において「大都市近郊におけるクリエイティブシティの展開」をテーマにフィールドワークを行ない、その成果を第5回全国観光学専攻学生発表会で発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】</p> <p>本科目は1クラス30名規模の一年次後期の演習である。友原嘉彦編(2017)『女性とツーリズム 観光を通して考える女性の人生』古今書院、を教科書に選定し、これをクラスで輪読、観光を切り口として特に近代後期における女性の人生を検討した。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>本科目は1クラス10名規模の一年次前期の演習である。受講生各自の気になるニュースの紹介などから、それらを全員で吟味、多様な角度から検討することで、大学という世界の物の見方や考え方について、これらの能力を涵養した。</p>

<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅰ 】</p> <p>西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光社会学 】</p> <p>教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 比較文化論 】</p> <p>ホックシールド著、布施由紀子訳(2018)『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』岩波書店、を教科書に選定し、世界中で顕在化するリベラルと保守とのものの見方や考え方について比較・考察した。また、保守がなぜそのようなふるまい、考え方に至るのか環境についても着目し、総合的に議論した。</p>
<p>授業科目名【 欧米観光文化地理Ⅱ 】</p> <p>東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月1回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。</p>
<p>授業科目名【 観光フィールドワーク 】</p> <p>北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークの成果を第5回全国観光学専攻学生発表会で発表してもらった。</p>
<p>授業科目名【 ツーリズム英語 】</p> <p>アガサ・クリスティーの推理小説『オリエント急行殺人事件』の原文を教科書に選定し、輪読するとともに、20世紀初頭から第二次世界大戦前までにおける欧州の旅行のあり方についてもレジュメで補い、総じて観光史の知識・教養を身に付けた。</p>
<p>授業科目名【 フィールドワーク入門 】</p> <p>最大3名までの小グループを作ってもらい、北九州市、および、その周辺地域を対象地としてフィールドワークを行なってもらった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後に口頭発表をしてもらった。予め、フィールドワークの意義や方法を説明してからの催行であり、各グループはそうした諸点を踏まえ、熱心に調査することができた。</p>
<p>授業科目名【 地域活性化研究 】</p> <p>地域がクリエイティブかどうかは、地域が活性するかどうかにかかり、1つの大きな要因となっている。本講ではこうした点を踏まえ、クリエイティブな都市とそうでない都市とは何がどのように異なるのか、国内外の事例や研究者の言説を紹介し、検討した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本国際観光学会		2008年4月～現在に至る。
日本観光研究学会		2008年7月～現在に至る。
観光学術学会		2012年7月～現在に至る。

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員会 副委員長